



広報担当の一割!?!な話



雑 まなぶくん

～第2話「火の用心」～

必ずどこかで役に立つ消防プチ情報コーナー「広報担当の一割な話」

何でも知りたがる少年雑まなぶくんからの素朴な疑問に、広報担当ならではの、一割の人しか知らないような雑学もまじえ、分かりやすく丁寧に答えしていきます。

第2話は、街でもよく耳にするあの言葉「火の用心」についてです。

知ると、あなたも話したくなる…。

ねえねえ、「火の用心」という言葉は、誰が考えたの？

まなぶくん、すごい疑問だね。

この言葉の起こりは、さかのぼること今から約400年以上前、天正12年(1584年)、小牧長久手で豊臣秀吉と徳川家康が戦った時、本田作左衛門重次という家康の家臣が国元の妻に送った便りに「火の用心」という言葉が使われたことからだといわれているんだよ。

どんな内容の便りだったの？

まなぶくん、気になるかい？

「一筆啓上、火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

わかりやすく言うと、『お手紙を差し上げます。火事になると大変なことになるから火の元には十分気を付けるんだよ。可愛い仙千代(当時3歳の娘)を泣かすんじゃないよ。生活の要となる馬の面倒はしっかりとみるんだよ。』という内容なんだよ。国に残した妻を偲んで書いたんだろうね。

お便りの初めに書くってことは、昔も、火事には本当に注意してたんだね。

いいところに気付いたね。そのとおり、まなぶくんも火事を起こさないように「火の用心 カチカチ！」だよ。

はい。

ちなみに、この「カチカチ」を鳴らすのは、拍子木(ひょうしぎ)

と言って、とても固い木でできている音具なんだよ。

両手に持って打ち合わせると、高く澄んだ音が出るんだ。

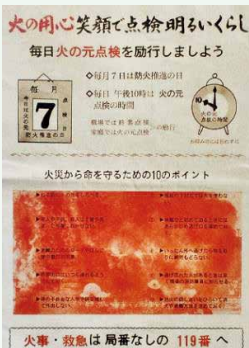
良く知られていていところでは、大相撲の力士の「呼出し」が拍子木を打っているよね。

遠くまでよく聞こえる「カチカチ」を聞けば、「火の用心 火の用心」と思い出すよね。

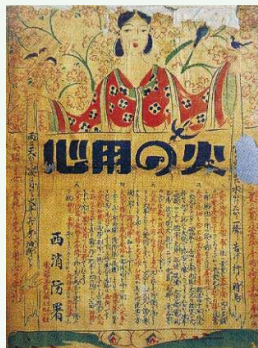
広報担当さんは、ほんとうに物知りだね！



防火ポスター



防火パンフレット



防火宣伝ビラ



「消防双六」の一コマ

[資料：大阪市消防五十年のあゆみ抜粋]